授　業　科　目　名	必修・選択別	単位数	対象学年	学 期	曜・限	担　当　教　員
東洋医学	必修	1	4	2		医学教育センター・中川、担当教員

【科目名の英文】　Oriental Medicine　(Kampo Medicine)

【授業のねらい】
漢方を医療の選択肢の中に取り入れるようになるために、漢方医学は西洋医学とは異なる概念を持つ医学であることを理解し、日常診療における漢方の有用性を認識する。

【具体的な到達目標】
Ⅰ漢方医学の基本的な考え方について概説できる。
①日本における漢方医学の歴史を概説できる。【中国伝統医学とその伝来、漢方医学の成立、漢方医学と中医学の現状】(黄帝内経、神農本草経、傷寒論、金匱要略)
②漢方医学における診察法と証を概説できる。
・証の概念を概説できる。(陰陽・虚実・寒熱・表裏、五臓、六病位、気血水の理論の概念)
・四診【望診(舌診)・聞診・問診・切診（脈診、腹診)】を概説できる。
Ⅱ代表的な漢方処方の構成と効果、副作用を概説できる。
①代表的な漢方処方と、主な生薬の作用について漢方医学(経験的・漢方薬理的)および西洋医学(エビデンス)の観点から説明できる。(大建中湯、抑肝散、六君子湯、加味逍遙散、八味地黄丸、葛根湯)
②構成成分で薬理作用を有する物質の作用（副作用）を説明できる。(エフェドリン、グリチルリチン、アコニチン)
Ⅲ漢方が臨床において用いられている現状を概説できる。
①西洋医学に漢方薬(和漢薬)を取り入れると有用な例を提示できる。
②全人医療から見た漢方の有用性を説明できる。
③鍼灸治療の適応疾患と禁忌、合併症を概説できる。

【授業の内容】

回	授業内容	担当講座・教員	方法
1	漢方医学の歴史（第 1 章）	北野（麻酔科）	講義
2	漢方薬の基本（第 3 章 1） 生薬（第 3 章 3）	伊東（薬剤部）	講義
3	代表的な漢方薬と EBM（第 3 章 2）	後藤（内分泌糖尿病代謝内科）	講義
4	気血水（第 2 章 2） 女性と漢方（第 4 章）	中川（医学教育センター）	講義
5	証の概念（第 2 章 1） 六病位・五臓（第 2 章 2）	西田（産婦人科）	講義
6, 7	漢方医学の基本理論（第 2 章 2）	織部和宏（織部内科クリニック）（非）	講義
8	漢方医学の診察法（第 2 章 3）（課題）	織部和宏（織部内科クリニック）（非）	講義 実習
9	高齢者と漢方（第 4 章）	吉岩（看護学科・総合診療）	講義
10, 11	鍼灸治療（第 5 章）	成田響太（真央クリニック附属鍼灸室）（非）	講義 実習
12	中医学（補講）	東洋医学研究会所属の学生	講義 実習

【アクティブラーニングの内容】
腹診シミュレータを用いた腹診、漢方薬（煎じ薬）の作り方、症例ベースの臨床推論、鍼灸の実技の実際を対面 or オンライン上で体験する。

【その他の工夫】
1 コマの授業を東洋医学研究会の学生が担当する。

【時間外学習の内容と時間の目安】
テキストを事前読んでおく(3ｈ)。資料を用いて復習する(3ｈ)

【教科書】
「基本がわかる漢方医学講義」日本漢方医学教育協議会編、羊土社、2020 年発行

【参考書】
「学生のための漢方医学テキスト」日本東洋医学会学術教育委員会　編、南江堂、2007 年発行

【成績評価方法及び評価の割合】
授業態度とレポート（30%）および筆記試験（70%）で総合的に評価する。
オンライン授業となった場合：
Moodle 上の全てのオンデマンド授業と Zoom によるリアルタイム授業を受けて、指定された全てのレポートを提出していなければ、受験資格を与えない。

【注意事項】
対面授業の予定であるが、新型コロナウイルス感染状況によりオンライン授業になる可能性あり。
詳細は Moodle やメールを通じて事前に連絡する。

【備　考】
特になし

教員の実務経験の有無	○	医師、薬剤師
教員以外で指導に関わる実務経験の有無	○	鍼灸師
実務経験をいかした教育内容	東洋医学の診察法、診断、治療について講義と実習を行う。	
授業形式	対面授業	